

東條
送

臺灣事畧

下

2
81

已
五
六
三
共
三
号

| | | | | |
|-----------|---|---|---|---|
| 東 京 圖 書 館 | | | | |
| 三 | 八 | 四 | 二 | |
| 冊 | 四 | 架 | 函 | 類 |
| | 号 | | | |

三
本



臺灣事畧二編

諸モ大使大久保大臣清國ニ欽派セラレシ
 ヲリ其結局和戦ノ中何レニ決セシヤト朝
 野首ヲ翹ダテ其報ヲ待タザルモノナカリ
 ケル然ルニ其北京ニ入リシ以来屢々清帝
 ニ面接ヲ請ヒ我が皇帝陛下ノ欽命ヲ奉
 ジ決議セント要スレドモ清朝之ヲ允サス

總理衙門ノ論辨猶ホ最初ヨリノ説ヲ變ゼ
ズ頑然臺灣ノ事件專ラ生蕃地彼我ノ論ヲ
主張シ抑原公使ニ答フル所ノ旨意ト異ナ
ルナシ其体タルヤ甚ダ因循持重ニシテ
言詞又ハ文書上ニモ都テ圭角モ露ハサズ
絶ヘテ激論危言ナドモアルナシ是レイ
ハユル日ヲ曠フシ久キヲ持スルノ策ニ出
タレハ大使浩然大節ヲ反ヘシ東歸セント

スルニ斷決シ北京ヲ出發スルニ至リテ
ハ我邦問罪ノ兵ヲ出シ膺懲セシ臺灣生
蕃ノ地ハ即チ我邦ノ版圖ト見倣シ之ヲ
開拓シテ以テ我カ有ト為スベキノ旨ヲ支
那政府ニ明諄之ヲ告ゲラルベシ若シ此ノ
如キノ事ニ立至ラハ實ニ隣好ノ誼モ絶ス
ルニ至ラン然ルニ於テハ彼ハ曲此ハ直卒
ニ兩國干戈ヲ接スルニ至ント當時相像セ

ザルモノナカリケル元來支那政府駐臺ノ
日本兵ヲ撤センコトヲ要セバ先ヅ其費用ヲ
償フベキハ當然ノ理ナレバ其義ナク頑然
トシテ曰フ臺灣ハ諷島清國所轄ノ地ナレ
バ外邦ヨリ我が疆域ニ侵入シ其土人ヲ誅
スルノ理ナシ急カニ日ヲ矧シ其兵ヲ撤セ
ヨナド、主張ス是レ固ヨリ事ノ理非ヲ了
セザル粗暴ノ論ニシテ前言ヲ食ムモノナ

リ如何トナレバ其地元ヨリ其所轄ニシテ
其人民ハ即チ其政府保護スベキ人民トセ
バ其人民ニシテ他邦ノ人民ヲ數度暴掠
殺ヲナスニ其政府誅鋤ヲサズ反テ恬然
黙過スルノ理アラシム且ツ夫レ暴キニ副
島大臣入清ノ時談判上元ヨリ事ノ已ニ決
セシコトナレバ今日ニ至リ之ニ反スレバ
是レ盟約ヲ破ルモノナリ其勢遂ニ兩國十

戈ヲ接スルニ出テス此時臺地都督府ニ放
テ商議アリ本邦ノ決議ヲ得ルニ如カズト
因テ谷少將ヲ本邦ニ遣シ此事ヲ朝廷ニ奏
ス而ノ朝廷更ニ大久保公ヲ全權辦理大臣
トシ欽派セシメ義理ノ分別然タラシメン
トシ其理正道ヲ取り以テ事ヲ處スルヲ要
センガ為メナリ然ルニ支那政府因循曠日
決答ヲ延期スト雖トモ其後支那大臣ト應

接ス我大使ノ主トスル所ハ事若シ止ヲ得
ザルニ出レハ兵ヲ以テ彼ト羸弱ヲ決スル
ニ在リト雖氏戰鬪ヲ為サズ彼ヲ屈服セシ
ムルヲ要トシ勢ヲ察レ理ヲ正シテ討論
ス支那ニテモ万一議破ルニ至レハ豫備ナ
シミル可ラズ因テ尚ホモ西洋諸國ヨリ軍
艦銃砲其余ノ器械巨額ヲ出シテ購求シ又
海濱ノ諸州ニ課シテ軍資ヲ命ス李鴻章等



清國海岸ニ
砲臺ヲ
修築スル圖

ハ諸方ニ備ヘタル營
壘ヲ巡視シケル現今
此ノ事情ニ至ルノ原
由ヲ考ルニ昨年副島
大臣ヲ清國ニ發遣セ
ラレシ時柳原氏鄭氏
ヲ總理衙門ノ署ニ遣
ハシ臺灣生蕃ノ事件

ヲ説明シ清國總理大臣ヘ應接ノ一段ヲ記
載セルモノアリ其言ニ

我曰ク我副島大臣謁帝ハ儀ハ昨日既ニ

謝断シ即チ歸装ヲ促セリ然レトモ我大

臣愈兩國和好ノ鞏固ナランコトヲ冀ヒ特

ニ某等ヲ遣ハシ貴政府ニ告グ茲ニ臺灣

ノ地ハ社古 我國人及ヒ和蘭人次ニ鄭

成功ナド嘗テ占據シタリシヲ貴朝ノ版

圖ニ歸セリ而シテ貴國僅ニ半偏ヲ治メ
其東部ニ在ル土蕃ノ地ハ全ク政權ヲ施
及セス蕃人自ラ獨立ノ勢ヲ張タルカ一
昨年冬我國ノ人民彼地へ漂泊セシヲ掠
殺ス故ニ我政府將テ使ヲ出シテ其罪
ヲ問ハントス惟蕃域ト貴國ノ府治ト犬
牙接壤ナレハ我大臣以為ヘヲク未タ貴
國ニ告グズシテ此役ヲ興シ万一貴轄へ

聊モ波及スルヲ有テ端ナク其猜疑ヲ受
ケナバ兩國是ヨリ和ヲ傷ハント此憂慮
有リ故ニ以テ豫シメ説明スル所ナリ彼
曰我大臣等只生蕃ノ琉球國民ヲ掠殺セ
シヲ聞ク未ダ貴國人ニ係ルヲ知ラズ
抑琉球國ハ是我藩屬ナレバ彼時琉民ノ
生蕃ヨリ脱去シテ來ル者ヲ悉ク我官吏
ヨリ救出シテ本國へ送り還シタリ我曰

我朝琉球ヲ撫字スル尤モ久ク中葉以降
 薩摩ニ附庸タリ況ヤ今大政日新一民モ
 其臣ニ非ラザル莫キヲ以テ彌撫恤ヲ務
 ム一ノ野蠻我王臣ヲ害スルヲ見テハ我
 君保民ノ權ヲ用テ專ラ其讒ヲ伸ベザル
 ヲ得ズ而シテ琉人ヲ我國人ト謂フ何ソ
 妨ゲン且ツ問フ貴國官吏既ニ琉民ヲ救
 恤スト云フ知ラズ其暴殺ヲ行ヘル生蕃

ヲハ如何セラレシヤ彼曰ク此島ノ蕃民
 ニ生熟兩種有リ従前我王化ニ服シタル
 ヲ熟蕃ト謂ヒ府縣ヲ置テ之レヲ治ム其
 未夕服セザルヲ生蕃ト謂ヒテ之ヲ化外
 ニ置キ甚理トヲ為サバルナリ我曰ク貴
 國ノ始メヨリ彼蕃他國ノ漂民ヲ掠殺セ
 シト九ノ数次有レトモ貴國嘗テ處分セ
 ス蕃益暴横ナル故今若シ他國ニ征セラ

レナバ豈エ惟ゾ蕃地ジノミナランヤ即チ府縣
モ或ハ貴國ノ有トナラザルベシ此後殺
人ノ故ヲ以テ此島ヲ外國ニ占據セキセラレ
バ即チ南安廣東及ビ黑龍江我國北カ蝦カノ
如クナリナバ我南海中ニ一ノ患ウ害カヲ滋
シ諸島ノ危イヲ致ス是ヲ以テノ故ニ我政
府直チニ往テ之ヲ征セント謀ル然レト
モ我大臣ハ兩國ノ好誼コウイヲ保キ重キスル為メ

ニ此奉使ノ便ニ因テ貴政府ニ明告メイコウシ其
猜疑サイイヲ避ケ然シテ後化外ノ地ヲ理スレ
バ全ク貴國ニ于涉カウセキセズ侵境シキキョウノ憂無アル
ベシ此事ハ我政府本告クルヲ欲セス
惟我大臣外務ノ重任ジュンニニ在ルヲ以テ若シ
一ノ小醜コウシウヲ懲ラスニ因リ隣國ノ和ヲ失
フニ至ラバ何ヲ以テ天下ニ對ヘン且我
國勇敵胆畧ノ士玩民遭害ノ事ヲ聞ク者

皆為メニ切齒シテ憤懣胸ヲ填メタリ政
 府問罪ヲ策シテ此氣ヲ消散セシメサレ
 ハ勢必激亂ノ滔々乎トメ防ク能ス境ヲ
 越へ寇ヲ為サンコト日ヲ待タザルベシ
 是レ亦兩國端無ク和ヲ儆フノ源ニシテ
 萬一爰ニ至ラバ則我皇帝今日我大臣ヲ
 遣ハシ貴國皇帝ヲ聘問シ換約締好スル
 畢竟何ノ用ニ屬スルヤ是我大臣ノ公心
ユウシン
カオヤンノホ

上ヨリ来ル一團ノ好意ナリ請フ之レヲ
諒察セヨ彼曰ク生蕃ノ暴横ヲ制セザル
 ハ我政教ノ逮及セザル所ナリ然レトモ
 福建ノ總督琉民ヲ救護セシ奏報ノ書ナ
 ド猶検査シテ他日復答スルヲ待タレヨ
 我曰ク貴國ノ京報ニ據テ此奏ヲ看タレ
 バ我國之ヲ知ラザル者無シ今我大臣歸
 心箭ノ如シ惟兩國ノ好ヲ思ヒ一言告明

シテ去ルノ之何ゾ他日ノ復答ヲ待ツニ
暇有ランヤト話畢テ乃チ別ルトナリ
時ニ清國ハ近來北邊一大重事ノ警戒モア
リテ國家多難ノ際内ハ清帝ト帝ノ叔父恭
親王トノ間一ノ隙ヲ生ジタリト
一説ニ據レハ清帝近頃勅諭シテ曰ク朕
去年正月二十六日始メテ万機ヲ断セシ
ヨリ延テ今日ニ至ルマテ恭親王ノ朕ニ

於ル数傲慢不敬ニ涉ルモノ有リソノ罪
輕キニ非ズト雖氏持ニ寛典ヲ無レ世襲
親王ノ禄位ヲ賜スルニ官皇爵ヲ以テス
然リ而ノ執政旧ノ如シ且ソ王太子モ亦
黜ケテ若宮皇ト為ス爾チ百官夫レ之ヲ
領セヨト又一説ニ恭親王ノソノ位ヲ撤
スセラレシヤ帝弱ニシテ稍々叔父恭親
王ノ訓誨及ヒ抑制ヲ厭フノ色有リ故ニ

親王ニ快カラザル者ソノ瓊々タル失ヲ
僥倖スルモノアリテ之ヲ羅織シ以テ朝
廷ヲ蔑視スト譏ス爰ニ放テ帝此罰ヲ下
セシナリト又云ク是ノ際ヲ生ゼシマ圓
明死建築ノ事ヨリ帝ノ怒ニ觸レシナリ
ト然レトモ皇太后帝ヲ極諫シ遂ニ親王
ノ爵位ヲシテ旧ニ復セシメ又專ラ軍國
兵馬ノ權ヲ執レリト云抑清國ハ我邦

ト古来隣交ナルガ其地ハ現今塞外ノ地
許多ヲ集合シテ其版圖ニ屬スルヲ以テ
亞細亞州中ノ最モ一大國ナリ其廣サ亞
細亞州ノ三分一ヲ領ス東西ノ直經十二
百九十里余南北八百里ニ下ラズ北ハ西
比利亞ト接シ東南ハ日本海支那海ニ濱
シ南ハ印度海西ハ獨立鞏韌ニ疆シ北長
城以内ヲ本部トナシテ元來ノ漢土ナリ

歷代革命興亡アリ而シテ今ノ清帝名ハ
 載淳トテ本年二十一歳ナリ始祖ハ愛新
 覺羅トイヒ名ヲ奴兒哈ト云韃靼ヨリ起
 リシ人ナリ明ニ攻入り自ラ皇帝ノ位ニ
 即キ天命ト建元シ燕京ヲ攻取り之ニ都
 ス之ヲ北京トナス今ヨリ二百五十七年
 前我ガ元和四年ニ當レリ後テ二世太宗
 ノ時崇徳元年ニ至レリ始メテ國ヲ清ト

号ス三世世祖十七年緬甸人明主永明王
 由擲ヲ執ヘテ清ノ軍前ニ致ス是ニ於テ
 清卒ニ其土ヲ一統ス今日ヨリ二百十五
 年前ナリ我カ万翌年朱成功鄭成功鄭經鄭
 清島ニ入りテ此ニ占據ス而ノ今其水部
 ノ土地ハ十八省ニ分ツ其中大小都府ノ
 尤モ著名ナルモノハ乃チ北京南京廣東
 上海等ナリ長崎ヨリ上海ニ至ル海各國
 路大凡ニ百二十余里

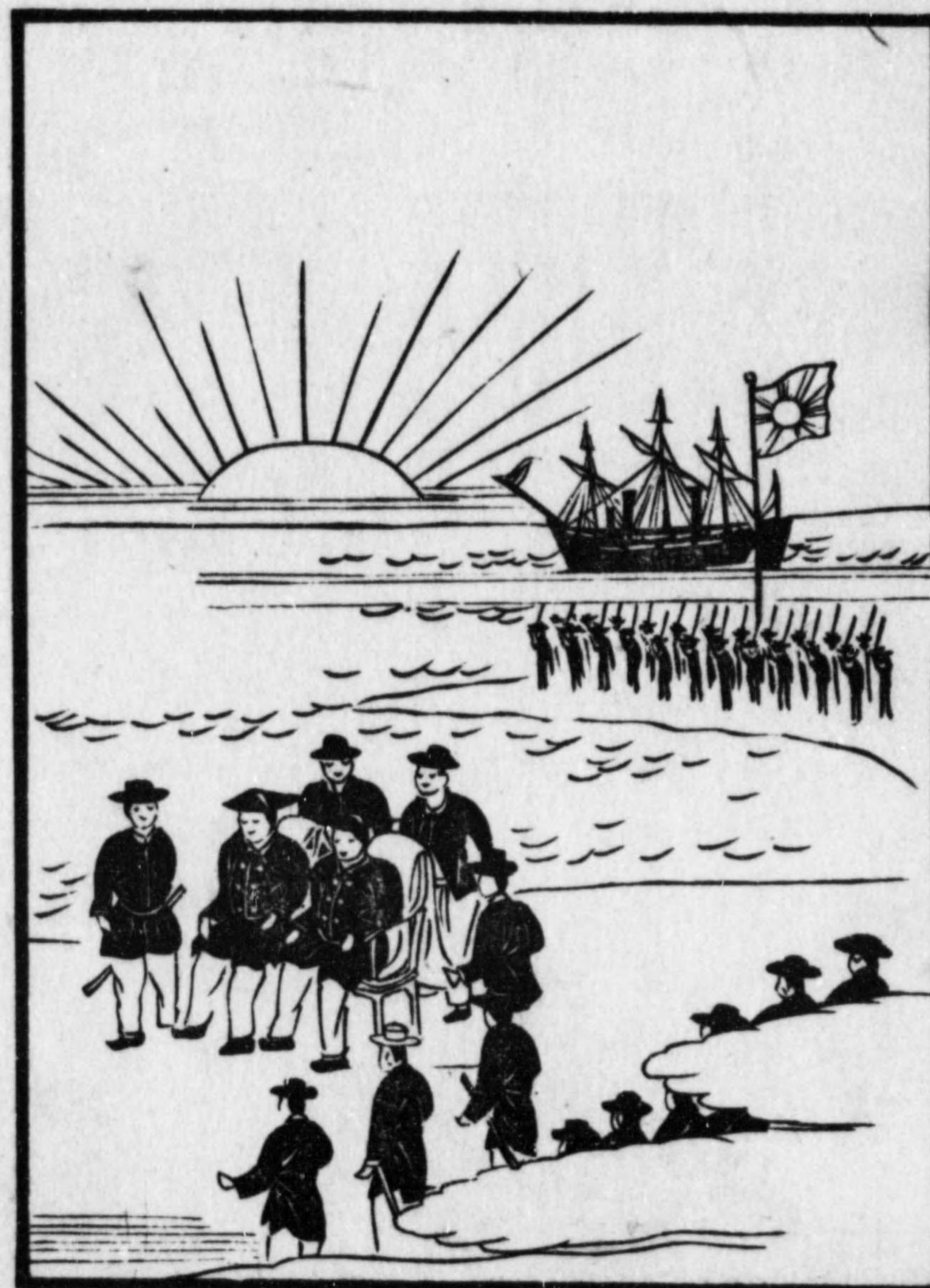
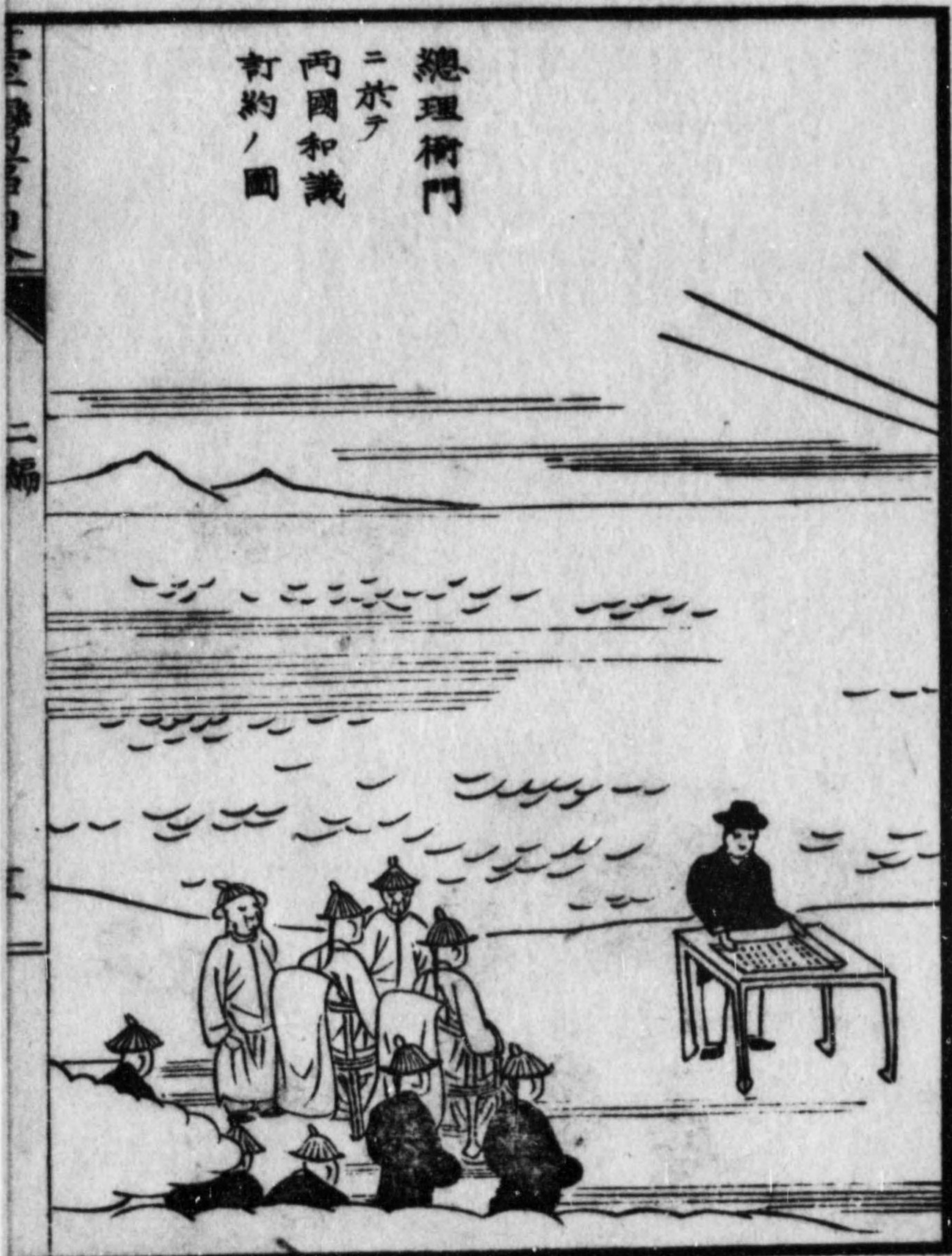
通商スルノ地ハ廣東厦門相臺清島ト福州寧波上海其他近來又々牛莊登州臺灣潮州瓊州等ナリ闔國ハ元來土地肥大ニシテ物産尤モ夥シ海岸ノ屬島許多ナリト雖トモ其中臺灣又ハ瓊州ヲ大トス洲ハ廣東ノ海角ヲ離ルハ七里ニ現今ノ兵シテ臺灣ヨリ差少ナルハ七里ニ現今ノ兵負ヲ概算スレハ近衛兵二十聯隊四萬人滿州兵隊八隊二萬五千六百人モニコリ

アン隊八隊四千八百人支那人八万九千六百人重兵八十八州毎ニ三萬五千人合セテ六十三萬人戰時騎兵タル者并ニモニコリアン騎兵三萬人惣負七十萬人此レ現今編入スル處ノ數ナリト暴々ニ我邦臺灣駐留將士ノ病ニ罹ル者多キヲ被聞召特旨ノ睿慮ヲ以テ權大侍医伊藤盛貞ヲ臺灣へ遣ハサレタリ

臺地ニ於テ戰^タ或ハ瘴^シ癘^イノ氣ニ襲ハレ
熱^ホ病^ダナドヲ煩^マフテ^シ者ハ長崎ニ送
リ大音大徳ニ寺ノ境内ニ埋^マ葬^スセリト云
時ニ桂宮^ノ靜寛^ノ院宮ニハ 朝廷費用ノ多^ク端
ナルヲ深^ク恐^マ察^スアラセラレ月俸ノ内ヲ減
シ金各五百ヲ奉^ラレタリ此ニ又佛國人ニ
シテ 我邦^ニ神奈川^ノ縣ニ^テ竊^シ仕^スルモツロベ
ルナル者ハ外域ノ人ナリ一雖^モ氏^ノ現^レニ

我邦ニ備^ハ社^ヲセラル、ノ故ヲ以テ其義^ヲ
表^シ月給ノ内ヲ減^シ月次ニ^テ献^ス金^セン一^ヲ
乞^ヒヘリ此程清國ニ在^テ大使大久保公支那
大臣ト數々國事ヲ議スト雖^モ氏^ノ支那政府ノ
議タル朝^ニ變^シ暮^ニ更^ニ其相ヒ合ハザルヨリ一旦
和議全ク破^レ其將ニ^テ東^ニ歸^スセントスルニ當
テ總理衙門邊^ニカニ之ヲ^テ侍^メ更ニ和ヲ求ム
是時ニ當^テ論議實ニ一^ニ變^シン遂ニ和議^ヲ治定

總理衙門
ニ於テ
兩國和議
訂約ノ圖



ノ結約ヲ為ス此際清國在留英國公使万端
盡カセリ其償金ノ高五十萬テール 我邦
ノ七十八萬圓ナリ内四十萬テールハ十二
月二十日ヲ限リ請取リ余ノ十萬テールハ
臺灣駐劄ノ兵凱旋ノ時納レントノ約定證
書ヲ取レリ免角支那ニテハ償金ノ名義ヲ
忌嫌シ償金トハ言ハズ十萬テールハ日本
人ノ生蕃ニ暴殺サレシ為メニシ四十萬テ

一ルハ日本ヨリ蕃地ニ房ヲ建テ道ヲ修メ
シ為メニ納ルンヲ懇頼スルニ因リテ之
レヲ許容ス故ニ訂約書ニハ償金ノ字ヲ記
セス其餘約書左ニ

互換條款

大日本全權辦理大臣參議兼内務卿大久保

理藩院右侍郎成

二編

大清欽命總理各國事務

工部尚書崇
戶部尚書董
軍機大臣協辦大學士部尚書賈
和碩恭親王
軍機大臣管理工部事務文
吏部尚書毛
軍機大臣兵部尚書沈
頭品頂戴兵部左侍郎崇

三品頂戴通政使司副使夏

條欵ヲ會議シ互ヒニ辦法ノ文據ヲ立ル
為メノ事照シ得タリ各國人民應サニ保
護シテ害ヲ受ルヲ致ササルベキノ處有
レバ應サニ各國由リ自カラ法ヲ設ケ保
全ヲ行フベシ何國ニ在テ事有ルカ如キ
ハ應サニ何國由リ自テ查辨ヲ行フヘシ
茲ニ台灣生蕃曾テ日本國ノ屬民等ヲ以

テ妄リニ害ヲ加ハフルコトヲ為スヲ以
テ日本國ノ本意ハ諛蕃ヲ是レ問フガ為
メ遂ニ兵ヲ遣リ彼ニ往キ諛生蕃等ニ向
ヒ詰責ヲナセリ今清國ト兵ヲ退キ並ヒ
ニ後ヲ善クスル辦法ヲ議明シ三條ヲ後
ニ開列ス

一日本國此_ニ次_ニ辨_{スル}所_ハ原_ト民_ヲ保_ツ
義舉ノ為メニ見_テ起_ス清國指_シテ以

テ不_レ是_ト為_サズ

二前_ニ次_ニ有_ル所_ノ害_ニ遇_フ難_民ノ家_ハ清

國定_テ撫_恤銀_兩ヲ給_スベシ日本有_ル

所_ノ設_處ニ在_テ道_ヲ修_メ房_ヲ建_ル等_ト

件_ハ清國留_メテ自_{カラ}用_{ユル}ヲ願_ヒ

先_ツ籌_補ヲ議_定スルヲ行_ヒ銀_兩ハ別

ニ議_辨スルノ據_有リ

三有_ル所_ノ此_ノ事_ニツキ兩國一_切來_往

ノ公文ハ被^ヒ此^シ撤^シ回^シテ註^ス銷^シ永^ク為^ル
メニ論ヲ罷^ム談^ル處ノ生蕃ニ至^ツテハ
清國自カラ宜^ク法ヲ設^ケ安^ク約^シ練^シヲ
為^スベシ以^テ永^ク航^リ客^ヲ保^シ再^ヒ究^ス
害^ヲ受^ケシム能^ハザル^ヲ期^ス

明治七年十月日

大日本欽差全權大使柳原 押加

同治十三年九月日

互換憑單

大日本全權辦理大臣參議兼內務卿大久保

理藩院右侍郎成

工部尚書崇

戶部尚書董

軍機查協辦大學士吏部尚書寶

大清欽命總理各國事務 和碩恭親王

二編

軍機處管理工部事務文

吏部尚書毛

軍機大臣兵部尚書沈

頭品頂戴兵部左侍郎崇

三品頂戴通政使司副使夏

憑單ヲ會議スル為メノ事台蕃ノ一事現
在業ニ英國威大臣兩國ト同ニ議明シ並

ニ本日互ニ辨法文據ヲ立ツルヲ經タリ
日本國從前害ヲ被ムル難民之家清國先
ツ撫卹銀十萬兩ヲ給ス又日本兵ヲ退ク
ヤ台地ニ在テ有ル所ノ道ヲ修メ房ヲ建
ツル等件清國留メテ自カラ用ユルトヲ
願ヒ費銀四十萬兩ヲ給ス亦夕議定ヲ經
テ清日本國同治十三年十一月二十日ニ於テ
清日本國全裁自退給スルヲ准ス均ク期ヲ愆

ツラ得ス日本國兵未タ全數退キ盡スラ
経サルノ時ハ清國銀兩モ亦タ全數付給
セズ此ヲ立テ據ト為シ彼各一紙ヲ執テ
存照ス

明治七年十月 花押日

大日本欽差全權大使抑原 押花押

同治十三年九月

此ノ如ク支那政府ト條款ヲ換ヘ訂約相整
ヒ隨員モ亦北京ヲ發シ天津ニ来リ上海厦
門ニ逗留シ西郷都督ニ談判ノ事アリテ臺
灣ニ向テ出帆セリ時ニ開拓使七等出仕小
牧昌幸外二名清國ヨリ帰朝セシニ因リ
天皇臨時太政官へ臨幸アリテ今回和議ノ
顛末ヲ 廠聞アリ愈兩國和議結約セシニ
因テ 天皇侍從長東久世通禧ヲ勅使トシ

テ都督西郷従道へ凱旋ノ命ヲ傳ン為ノ臺
湾へ遣ハサル往日我兵生蕃牡丹部ニ進撃
、時捉捕セシ蕃ノ小女名ハヲタヨイナル
モノヲ此船ニ載テ護送セラレタリ此蕃女
一旦父母兄弟ノ携挈ニ迷ヒ于戈ノ中ニ捉
捕セラルト雖氏獨リ何ノ幸福ニ因リテ
慈仁ノ澤ヲ蒙リ遙ニ至仁ノ帝都ニ入り
目未タ見ザルノ萃羸ヲ見口未ダ嘗メサル

ノ羨味ニ飽キ層未タ着ケサルノ羨服ヲ纏
ヒ体未ダ卧セザルノ安床ニ寐ネ身未ダ座
セサルノ綺室ニ養ハレ其故立ニ歸遣セラ
ル、ヤ巨多ノ羨衣羨餌羨器ナドヲ抱持シ
去リテ再ヒ其父母ニ逢フヤ其父母果シテ
之ヲ收觀スベシ嗚呼我が朝廷ノ慈仁恩
澤ノ渥キ猗猗殘忍ノ牡丹蠻族ト雖氏豈ニ
之ヲ感泣拜戴セザランヤ我邦往日皇族

ヲ始メトシテ時勢ノ容易ナラザルヲ察シ
月給ノ内ヲ以テ用度ニ充ンテ請ヒ其他
華士族平民ノ愛國心ニ仗リ報効セント各
軍資ノ為メ或ハ官給ヲ納メ或ハ家祿ヲ奉
還シ或ハ生計ノ餘資ヲ献ジント陸續之ヲ
乞フ者アリテ已ニ奏聞ニ及バレシトコロ
這般日支兩國和議相整ヒシ上ハ其義ニ及
バズ 歡感アラセラレシ旨ヲ達セラレタ

リ扱モ大使ハ臺灣ニ至リ西郷都督ト談判
アリ龜山本營ヨリ直々ニ汽船金川丸ニ乘
リ四晝夜ニシテ長崎ニ着シ此ニ一泊アリ
テ翌日拔錨シ二十六日横濱へ入港ノ電報
有ケレバ本日東京府下ハ言ヲ待タス横濱
ノ市街ハ毎軒國旗ヲ翻ヘシ球燈ヲ張り又
ハ華形ノ瓦斯燈ヲ設ケ或ハ飾物ナドヲ出
シ衆庶欣マトシテ相ヒ祝シ互ニ賀セリ本

港ノ商賈三百人一齊ニ禮服ヲ着シ今ヤ暹
シト埠頭ニ集リ待テ迎ヘタリシカ夜巳ニ
一時ニ至ル頃着セラレタリ大久保公ハ埠
頭ヨリ上陸アリテ直チニ大藏省出張所ニ
至レリ此日大政大臣三條公 勅ヲ奉テ已
ニ此所マテ出迎ハレタリ其他公卿華族ノ
面々ニモ同所ニテ面會セラル又會所ニ於
テ本港ノ人民ニ面會アリ高島嘉右衛門總

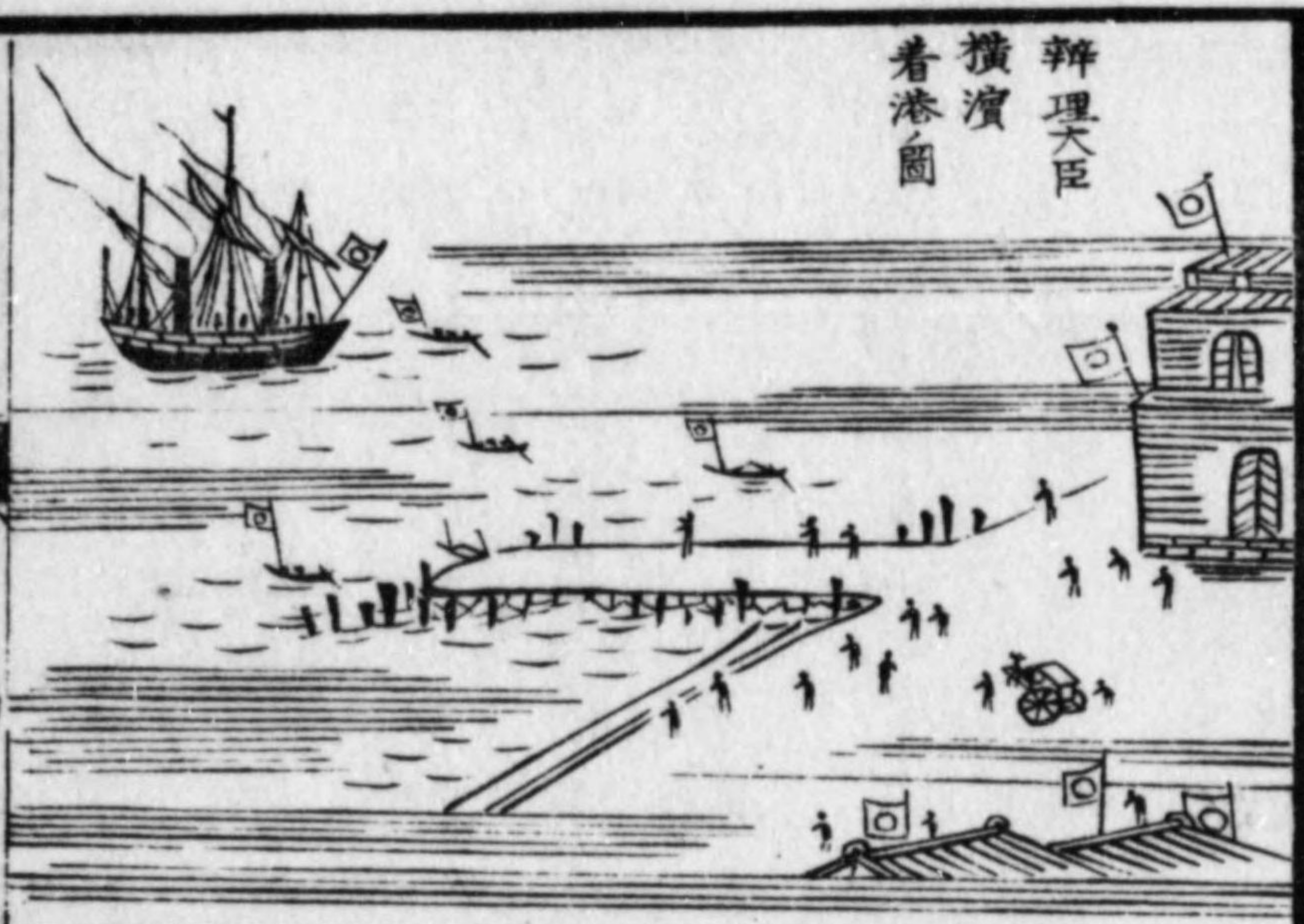
代トシテ下カ風ニ進ミ祝詞ヲ述フ其文ニ云
ク

全權辦理大臣參議兼内務卿大久保公
閣下ノ歸朝ヲ頌賀ス抑々閣下我カ
天皇陛下ノ欽命ヲ奉ゼラレ國家ノ大事
件ヲ擔任シ清國ニ航行アラレシ以來朝
野ノ士民日夜頸ヲ延キ踵ヲ改ダテ信報
ヲ待チ奉リシ處去ル八日ノ信報布告ヲ

二編

ヲ得テ日清ノ間平和ニ歸ルヲ兼リ我等
喜舞拊躍ノ至リニ堪ヘス其情狀實ニ短
言ノ尽スハザルトコロナリ恭シク
惟ミルニ是全ク我ガ天皇陛下ノ深仁
廣澤ニ基ツキ閣下ノ所置其宜ガ致ス
所ニシテ兩國億萬ノ生靈ヲ塗炭ニ墮
レサル而已ナラズ又頌揚殿威ヲ開ラク
ノ基礎ニシテ天下万世ノ大幸福ト云ハ

ザルベカラズ今閣下ノ安着ニ會シ我
等謹ンテ頌賀ヲ呈スト述ベ終テ一同拜
揖ス大久保公答詞アリ其文ニ云ク
我が天皇陛下維新ノ偉業ヲ閱ラキ玉
ヒシヨリ東征北伐速カニ平定シ萬民
澤ヲ蒙ルコト茲ニ七年是皆皇運ノ然ラ
シムル處ナリ今般日清兩國和議調整ス
ル所以ノ者豈人カノ能ク致ス所ナラン



辨理大臣
横濱
着港圖

此時又山梨縣ヨリモ
管民ノ摠代トシテ有
野村名取善十郎篠原
村新海吉哉ノ兩名モ
遙々拜迎、為メ此地
ニ来リテ是時祝賀ヲ
述グ大久保公亦前文
ヲ以テ之ニ答ヘラル

ヤ是偏ニ 聖意全國ニ貫徹シ政府ヨリ
下人民ニ至ルマテ 一意報國ノ赤心厚キ
ト忠肝ノ著シキトニ 因リ自カラ感應ス
ル所ニ非ラズシテ何ゾヤ今日諸子等國
家ノ為メニ賀頌シ此厚意ヲ忝ウス予感
謝スルニ餘アリ爾今益當港ノ繁榮ハ云
モ更ナリ全國幸福ヲ相共ニ蒙ラシコト
ヲ冀望ス

本港ノ人民一同スチーシヨニテ拜別ス
午後二時歸京ニナラレタリ抑臺灣島ノ蕃
族我ガ赤子ヲ殘殺セシニ因リ此地支那化
外ト雖氏之ヲ齊懲スルニ當テハ其難万
其化内ノ民ニ波反セシモアラント憂慮セ
ラレ更ニ支那政府ヘ談判シ然後 我朝大
兵ヲ舉ゲラレシナリ而ルニ彌練支那政府
此ニ異議ヲ起シ遂ニ兩國葛藤ヲ生シ其勢

終ニ干戈ヲ接スルニ至ラントスルヲ我
皇帝陛下更ニ全權辦理大臣ヲ欽派シ其理
非曲直ノ分ヲシテ判然タラシメントス然
ルニ事猶紛紜解クヘカラザルヲ大使大久
保公刻苦勵精シ明辨果斷公議正論確乎不
拔毫モ屈セザルノ持論ヨリ彼ノ朝變暮更
ノ議ヲ辨破シ一朝ニ彼ノ政府ヲシテ和ヲ
請ハシメ反テ益其好誼ヲ鞏固ニス獨リ公

ノ使命ヲ辱カシメサルノミナラス 我皇
威ノ萬邦ニ赫々輝耀スル者ニシテ親ク我
カ三千五百萬余ノ生靈ヲ安ゼシムルノミ
ナラス 彼土四百余州ノ蒼生ヲシテ塗炭ノ
苦ヲ免レシム其威勲實ニ皇國ノ羨事十載
未曾有ノ盛舉ナリ是レ偏ニ 我皇帝陛下
ノ深仁ニ基スルト雖氏亦大使大久保公忠
躬ノ貫徹スル所ニ類ルモノナリ天下万民

其レ之レヲ感銘奉戴セザル可シヤ

附録

往日大久保大使ニハ臺地ニ至リ這回和
議調整ノ件遂一西郷都督ニ面晤アリテ
兩三日滯留セラレタリ此時大久保大使
ヲ首トノ外隨員モ彼ノ石門ノ險阻ナル
井ニ牡丹其餘諸寮ノ部落或ハ双溪口ノ

地ナト往日巡視アリテゾ此地ハ最初内
山生蕃ノ事情ヲ探偵セン為メ此山間ニ
入リシニ彼此所ニ潛匿シテ狙撃セシ所
ナリ彼小丘ハ我兵ノ進ムヲ待テ胸壁ヲ
築キ梗塞セシトコロナリ此ニ彼レヲ追
撃シ又ハ窠極セシトコロナリ或ハ此山
間ニ於テ彼レ鳥獸走此山頂ニ現出シ
彼ノ林際ニ隱匿セシトコロナリ或ハ我

兵此所ヨリ直チニ牡丹社ニ逼リシトコ
ロナリ彼ハ高草深莽此ハ断崖絶壁兵士
ノ困難セシトコロナド、指點アリトナ
リ其後支那ニテハ大臣李鴻章ヲ以テ北
京ヨリ臺地ニ向ケ遠回和議調整セシ訂
約書ヲ齎ラシ西郷都督ニ應接セシメタ
リ李鴻章臺地ニ至リ都督以下參謀等ニ
應接シテ此訂約書ヲ揚誦シ終ル我軍乃

ナ十二月三日ヲ以テ凱旋ノ日ト定ム彼
ノ琅瑯其全熟蕃ノ酋長等ヲ始メトシテ
我軍駐臺中恩親ヲ蒙リシカハ彼等蕃人
ト雖別離ノ情ニ耐ヘス涕泣セシト云
ノ我軍諸隊三日ニ愈各艦ニ乘込ミ祝砲
ヲ發シ船艦相接ンテ本地ヲ發シケル一
説ニ此時支那ヨリモ兵士ヲ差遣シケレ
ハ其清國政府ヘ受取ルヘキ物ハ總テ相

渡シケルニ我兵愈發艦ノ時我邦ヨリ漸
次ニ本營ヘ遣送セシ物品ノ船艦ニ積ム
モ其物品多シテ積ムコト能ハズシテ餘
ル所ノ物品ハ盡ク海濱ニ委積シ火ヲ放
テ之ヲ焚消スト偕モ嚮キニ西郷都督ノ
締切ヲ擁シ餘ノ將校撰ニ入りテ三千ノ
逞兵ヲ引率シ蕃地ニ向フヤ勇悍奮勵其
蕃域ニ入ルヤ渾律肅靜而シテ其土蕃ニ

接スルヤ温威慎嚴實ニ皇國ノ兵タルニ
恥テス士卒ヨリ傭丁ニ至ルマテ秋毫モ
侵ストコロナシ熟蕃ノ酋長先ツ来テ我
軍門ニ降シ心服親従今回我邦舉ルト
コロノ恩典ニ感激シ曾テ郷導ヲナス然
レ氏彼ノ東部内山ノ生蕃ハ元ヨリ不開
地ノ土人ニシテ倫理ヲ知ラス其性固ヨ
リ争鬪ヲ好ミ残忍暴厲ニシテ猖獗我ニ

抗スルヲ以テ遂ニ内山ニ進撃シ彼ノ諸
蠻族ノ古來残害ヲ受ル牡丹ノ巢窟ヲ一
舉ニ破ルニゾ彼始メテ其威武ニ震懼シ
他ノ酋長モ風ヲ望ンテ降ヲ請フ是ニ於
テ我武威益輝耀諸蠻咸ク平定ス則其日
ニ至リテハ彼ノ生熟相共ニ敵視スルノ
意相解ケ協和往來スルニ至ル實ニ我
邦是ノ典ヲ舉ケタルヤ彼ノ所謂取残ノ

二編

仁德ヨリシテ殺伐以張ノ武威ヲ耀カセ
 リ夫レ皇國ノ武威タル千古萬國ニ
 響スルトコロニシテ抑武ヲ以テ國基ヲ
 立ルマ先ツ日本武尊ヲ始トシテ神功ノ
 韓ヲ征スル為朝ノ琉球ヲ畧スル義経ノ
 蝦夷ニ於ケル北條カ蒙古ノ兵ヲ鏖ニス
 ル豊公ノ朝鮮ヲ伐ツ其余山田長政ガ暹
 羅ヲ畧スル鄭森カ臺灣ノ今ノ西部ニ據

リ明ノ為メニ揮霍スルハ言ヲ待スト雖
 氏實ニ今又其旌旗口章ノ向フトコロ其
 光輝赫々タル魑魅罔兩ノ如キ
 人ノ如キ
 貂モ曾テカ震懼セザランヤ楮モ抑原公
 使ニハ盟約ノ如ク上海ニ於テ萬金五十
 内曩四十萬ヲ請取テ同港ヲ費ス此頃西
 郷都督ハ已ニ長崎ニ着アリシ以來畢ク
 蕃地ノ事務ヲ調理シテ同二十四日神戸

へ着ス本港ノ商人等祝詞ヲ呈シ將士カウベ勲
勞ニ報セント牛酒ヲ獻シタリ同二十七
日横濱へ着同所ヨリ汽車ニテ東京新橋
ステーションニ到着セリ此時三條太政大
臣大隈参議之ヲ此ニ迎フ陸軍省ニテハ
近衛歩兵二聯隊鎮臺兵三聯隊騎兵隊ヲ
繰出シ皆ナ正服ニテ凱旋ノ迎儀ヲツク
セリ

一此編ハ元ヨリ言詞ノ雅不雅ニ関セス只
其古今ノ形勢ヲ略記スルモ、ニシテ現
今ノ事蹟草々ニ出タレハ先後スルナン
ト言フベカラズ者官幸ニ答ル勿レ

東條 臺灣事畧二編 終
保述

2
81

明治七年十一月 官許
同 八年三月 發兌

東京 小倉萬次郎藏版

發兌

書房

東京 銀座二丁目 田中九兵衛出店

西京 三條通柳馬場 辻本仁兵衛

大坂 南久太郎町壹丁目 田中九兵衛

同心齊橋筋 中島德兵衛

